

# 平成28年度 事業報告

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

## 1 概 要

平成28年度は、リオ五輪において、広島出身の山縣選手を含む400mリレーメンバーが銀メダル獲得の歴史的快挙を成し遂げ、また、プロ野球広島カープが25年ぶり7度目のリーグ優勝を達成し、広島の活躍ぶりを象徴する「神ってる」という言葉が流行語大賞に選ばれるなど、広島県民にとってはスポーツの明るい話題が続いた一年でしたが、4月に発生した震災関連死を含む死者が220人に及んだ熊本地震を始めとする地震の多発や、8月の東北地方に上陸した台風10号による東北・北海道を中心とした大雨による河川の氾濫や決壊による多大な被害など、昨年同様自然の脅威を痛感させられた一年でもありました。

また、前年、平成12年以来の増加に転じた交通事故の死者は、昭和24年以来67年ぶりに3千人台と大きく減少しましたが、高齢者の占める割合は過去最高の54.8%となり、高齢者が加害者となるケースも増えており、高齢者の交通事故防止対策が重要課題となっています。

一方、経済面においては、GDPは4四半期連続で増加し景気が緩やかに持ち直していることが改めて示されたが、中身を見ると引き続き外需主導の持ち直しであり、内需の伸びは横這いに止まるなど、依然として回復の勢いに力強さは見られない。

このような状況下、当センターの平成28年度事業実績は、対前年度比で受託件数は109件減少し、契約額も559万8千円減少しましたが、請負・委任業務から派遣業務に移行した自動車運転の派遣料金492万2千円を差し引くと、実質67万6千円の減となりました。

経常収益合計では、昨年度実績を501万1千円下回りましたが、経常費

用も昨年度実績を533万4千円下回り、当期経常増減額は当初予算額を296万7千円上回る36万4千円のマイナスとなりました。

マイナス額が半額に縮減されたとはいえ、大口発注者の事業廃止に伴う就業停止等もあり、今後も事業を取り巻く環境は厳しさを増すものと予想され、今にも増して多様なニーズに対応できる組織を構築し、安定した財政運営が継続できるよう、会員・役職員の総力を結集して取り組んでいきます。

以下、平成28年度において実施した事業の実績概要を報告いたします。

## 2 事業内容

### (1) 正会員の状況《公1》〔1〕4-(1)・(4)

平成28年度末の在籍会員数は292人(男性176人、女性116人)で、前年度末に比べ8人の減となりました。

新規入会者は22人(男性11人、女性11人)、退会者は30人(男性17人、女性13人)となっています。

今後も、入会希望者を対象とした毎月第三木曜日の定期説明会や勸奨チラシの配布など、あらゆる機会を捉えて積極的にシルバー事業をPRし、会員の確保に努め、組織の安定化を図っていきます。

### (2) 就業状況《公1》〔1〕4-(3)

年間を通じての就業会員数は、292人中263人で、就業率は90.1%と前年度(93.3%)を3.2ポイント下回りました。

男女別の就業率は、男性88.1%、女性93.1%となっています。

また、就業延人員は30,504人で、前年度に比べ1,336人減少しました。

今後も、就業分野の開拓・拡大を図ると共に、就業する会員の適性等を把握分析し、就業率の向上に努めていきます。

### (3) 受注状況《公1》〔1〕4-(3)

平成28年度の受託件数は4,198件で、対前年度比97.5%、件数にして109件の減となりました。これを職群別で見ると、除草、清掃、草刈等の「一般作業群」が2,670件(全体比63.6%)、剪定、襖・障子の張替え等の「技能群」が896件(全体比21.3%)、福祉家事援助、家庭内清掃等の「サービス群」が335件(全体比8.0%)となっており、この3職群の合計は総受託件数の92.9%に達している状況です。受託契約金額は、136,755千円で対前年度比96.1%、金額にして約559万8千円の減となりましたが、前記のとおり、派遣業務に移行した自動車運転の派遣料金492万2千円を差し引くと、実質67万6千円の減となりました。

発注者別の構成比では、公共事業が45,396千円(公民比33.2%)、民間事業が91,359千円(公民比66.8%)と、年々公共事業のウエイトが高まる状況となっています。

## 3 事業実施状況

### (1) 普及啓発活動《公1》〔1〕4-(1)・(5)

高齢者の能力を生かした活力ある社会づくりを目指すシルバー人材センターの役割が益々重要視されてきているにも拘わらず、その存在が市民に十分周知されていない状況があります。

そのため、市広報誌への掲載、ホームページの随時更新、会報の発行、路線バス車体へのマーキング広告等による普及啓発を実施しましたが、会員数は年度当初より8人減少しました。

会員数の伸び悩みが、昨今の受託件数の減少や契約額の減少という状況の最大要因となっていることを再認識し、喫緊の課題として取り組んでいく必要がある。

## (2) 安全・適正就業確保《公1》〔1〕4-(2)

安全就業対策については、職群班毎の就業前ミーティングでの意思統一、安全委員・推進員による就業現場への巡回指導等により、会員の事故に対する意識高揚を図り、事故の未然防止に努めてまいりました。

しかし、平成28年度の就業中の事故は、重篤事故こそ発生していませんが、保険対象となった事故は物損事故1件（前年度2件）、傷害事故も3件（前年度2件）発生し、保険対象とならなかった事故も含めると、例年になく多発しました。

また、会員の安全意識の高揚を図るための、安全就業標語の募集には、34人から80作品の応募があり、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選出しました。

適正就業の確保については、シルバー就業の基本である「臨・短・軽」を遵守するよう、ワークシェアリングを推進し就業率の向上を図りました

## (3) 就業分野の開拓・拡大《公1》〔1〕4-(3)

シルバーセンターが高齢者の受け皿として十分な機能を果たし、地域社会の支え手となるためには、会員の拡大を図ると共に就業分野の開拓・拡大が必要不可欠です。平成28年度の受託件数は前年度を109件下回りましたが、就業分野を拡大しても就業会員不足で受注決定できないという悪循環が続いており、会員の拡大を図ることが先決課題となっている。

## (4) 研修会・講習会の取組み《公1》〔1〕3

会員の技能向上を図り就業機会の拡大に資するため、「シニアワークプログラム地域事業」に替わる「高齢者活躍人材育成事業」として、5月に安全運転・7月に刈払機取扱い・2月に剪定の3講習を実施しました。それぞれ9人、18人、18人の受講者があり実のある講習会となりました。

また、職員のスキルアップのため、事務研修会や講習会には積極的に参加しました。

**【事業報告の附属明細書】**

事業報告の附属明細書については、平成28年度事業報告においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条に定める「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありませんでした。